核兵器廃絶を訴えるための
ピースリレー2026 のメッセージです。

私たちはおおさかパルコープの組合員です。
核兵器廃絶を広く社会に訴え、1970年代から平和を願って歩いています。

1945年、広島・長崎に落とされた原子爆弾によって、街は一瞬にして破壊され、たくさんの尊い命が奪われました。生き残った人々も、生涯にわたり、苦しみや不安を抱えることになりました。今、核兵器を持つ国が、それを使おうとする動きも見られる中で、「また原爆が使われてしまうのではないか」という心配が世界中に広がっています。

核兵器は、たくさんの命を一度に奪い、長く苦しみを残す、とても残酷な兵器です。人類とは共存できない、存在するだけでも大きな危険となります。それでも地球上にはまだ12,200発余りの核兵器が存在しています。
世界では、紛争が長期化し、大人だけでなく多くの子どもたちが犠牲になっています。
その中で、核兵器が使用されないという保証はどこにもありません。人類を脅かす危機は去るどころか、より高まっています。

日本が掲げてきた「核兵器を持たず、作らず、持ち込ませず」の非核三原則、そして「核兵器は使ってはならない」という考え方が、今、揺らいでいます。
だからこそ、私たちにもできることがあるのではないでしょうか。
核兵器を持つことで、抑止力にするのではなく、被爆の実相を知り、自分事として被爆者の声を語り継ぎ、思いをつないでいくことこそが、強い抑止力になるのではないでしょうか。

日本は唯一の戦争被爆国です。平和憲法の理念を守り、政府に核兵器禁止条約への参加を求めましょう。
人類が核兵器で自滅することのないように、核兵器も戦争もない世界を実現させるために、共にがんばりましょう。
子どもたちに平和な世界を残すのは、私たち大人の責任です。
平和にくらせる幸せ、戦争の悲惨さ、争うことの悲しさ愚かさを子どもたちに伝え、青い空と希望にあふれる平和な未来を手渡しましょう。
身近な人たち、そして日本、世界の人たちと手をつなぎ、共に歩んでいきましょう。

※行進時に、沿道の人々に向けてアピールする予定です。　（2026年2月作成）